

69億0,025万円であちづくり

行財政改革を推進

第4会町議会定例会が開催され、平成20年度一般会計予算を含める37議案が審議され、原案のとおり可決されました。ここでは、どんな事業を行い、どんなお金の使われ方をするのか、一般会計予算を中心にお知らせします。



平成20年度町長所信表明
鏡石町長 木賊政雄

「昭和」から「平成」へと年号が変わり、この20年目を節目として、さらに飛躍発展できるよう創意工夫をこらした個性豊かなまちづくりに努めて参りたいと思います。

平成20年度の予算編成にあたりましては、「快適空間づくり」「元気づくり」「活力づくり」「人づくり」「地域づくり」の5つの柱を基軸に、各種事業の重点的かつ効果的な配分に努めたところであり、各種施策の優先順位に基づいて配慮したところです。

歳入面では、地方再生対策費の創設により、マイナズ傾向に歯止めがかかったものの、依然として地方税収の伸びが

純化する中で、地方財政は大変厳しい状況にあります。一方、歳出面では、経常経費の圧縮を図りながら、第4次総合計画の推進を図るべく配慮したところです。

主要事業につきましては、町道の整備、成田ほ場整備、公共下水道事業を計画しており、ソフト事業では、各種イベント、総合型スポーツクラブの設立、教育、福祉、子育て支援などの各種施策に取り組む予定であります。

38億8,000万円で一般会計を切り盛り

町の行政運営の根幹を担う平成20年度一般会計予算案が、第4回町議会定例会に提出され、38億8,000万円で承認されました。昨年度より5,000万円少ない予算編成となりました。

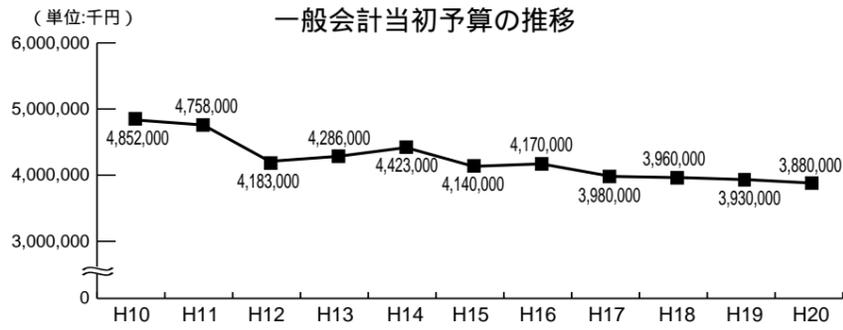
一般会計予算を見ると、歳入では、法人税などの若干の伸びにより、町税が増額となっています。また、将来を見据えた繰入金の減額が見られます。

一方、歳出では、職員の早期退職勧奨による人件費や公債費などの義務的に生じる経費の減額が見られます。老

人保健特別会計の大幅な減額が見られます。これは、老人医療制度が後期高齢者医療制度に移行されたものです。

町3役給与、町議員報酬を減額

平成20年度予算案の他、今回の町議会定例会では、町長、副町長、教育長の給与、町議会議員報酬を10%減額する条例など37議案が承認されました。また、人権相談などを担当する人権擁護委員として小森尚幸さん(中町)の法務大臣への推薦にあたり、議会の意見が求められ、同意を得ました。小森さんの任期は、本年7月から平成23年6月末までの3年間で



町の予算のしくみ

町の予算は、一般会計、特別会計、企業会計の3つに分類することができます。各会計には、町に入るお金の歳入、町から出るお金の歳出があり、法律でそれぞれの収支の均衡が義務づけられていますので、赤字予算・決算は許されていません。

一般会計は、町行政運営の財政を基本的に経理する会計で、福祉や教育、建設など町の事業の大部分をまかなう大事な会計です。

特別会計は、特定の事業について一般会計とは切り離し、独立した経理で行う予算で、町では、国民保険事業特別会計など9つの特別会計がこれにあたります。

企業会計は、地方公営企業法の適用を受けるもので、上水道事業会計となります。

用語説明

- <歳入>
 - 町税
 - 皆さんや法人が町に納めるお金
 - 繰入金
 - 各種基金の取り崩しや特別会計などから繰り入れるお金
 - 地方交付税
 - 自治体の財政力に応じて国から交付されるお金
 - 町債
 - 国や銀行などからの借入金
- <歳出>
 - 公債費
 - 借入金の返済に使われるお金
 - 投資的経費
 - 道路、学校などの建設・整備に使われるお金
 - 繰出金
 - 各種基金や特別会計間などへ繰り出されるお金
 - 維持補修費
 - 町が管理する公共施設などの修理に使われるお金
 - 扶助費
 - 社会保障制度の一環として、児童、老人、生活困窮者を援助するために使われるお金

平成20年度 鏡石町各会計当初予算総括表

会計区分	本年度	前年度	比較	
一般会計	38億8,000万円	39億3,000万円	-5,000万円	
国民健康保険特別会計	12億3,300万円	12億9,371万円	-6,071万円	
老人保健特別会計	1億3,700万円	10億1,693万円	-8億7,993万円	
後期高齢者医療特別会計	8,925万円	0	8,925万円	
介護保険特別会計	5億8,750万円	5億8,304万円	446万円	
土地取得事業特別会計	303万円	304万円	-1万円	
工業団地事業特別会計	5,439万円	1億0,341万円	-4,902万円	
鏡石駅東第1土地区画整理事業特別会計	6,480万円	6,578万円	-98万円	
公共下水道事業特別会計	4億3,270万円	4億6,800万円	-3,530万円	
農業集落排水事業特別会計	6,300万円	6,350万円	-50万円	
育英資金貸付費特別会計	1,129万円	1,237万円	-108万円	
小計	65億5,596万円	75億3,978万円	-9億8,383万円	
上水道事業会計	収益的	2億2,629万円	2億2,990万円	-360万円
	資本的	1億1,800万円	1億5,258万円	-3,458万円
	計	3億4,429万円	3億8,247万円	-3,818万円
合計	69億0,025万円	79億2,226万円	-10億2,201万円	

※後期高齢者医療特別会計は今年度より新設。

歳出 38億8,000万円

	H20	H19
人件費	8億5,648万円 (22.1%)	
公債費	7億1,090万円 (18.3%)	
扶助費	2億8,445万円 (7.4%)	
投資的経費	2億6,819万円 (6.9%)	
補助費など	6億2,528万円 (16.1%)	
物件費	6億1,735万円 (15.9%)	
繰出金	4億2,644万円 (11.0%)	
貸出金	3,900万円 (1.0%)	
維持補修費	1,373万円 (0.4%)	
積立金	851万円 (0.2%)	
予備費など	2,967万円 (0.7%)	

歳入 38億8,000万円

	H19	H20
地方税		14億4,802万円 (37.3%)
分担金や負担金など		2億0,251万円 (5.3%)
繰入金		3億8,232万円 (9.8%)
地方交付税		9億7,800万円 (25.2%)
国庫支出金		1億8,130万円 (4.7%)
県支出金		1億9,094万円 (4.9%)
地方消費税交付金など		2億5,811万円 (6.6%)
地方債		2億3,880万円 (6.2%)